

SDGsやプラスチック資源循環法施行の流れを受けて、排出事業者やメーカーがマテリアルリサイクルに積極的に関与する動きがある。これにどう対応していくのか。リサイクル事業を手掛けるエコロ(埼玉県三芳町、☎049・265・8390)とリサイクル機器販売のEnma Japanの2社を経営する後藤雅晴社長に話を聞いた。



エコロでは長年、プラは、再生が困難なプラスチックのマテリアル製品のリサイクルリサイクル事業を手掛けている。塩ビ壁紙や塩ビシート、ビト不織布からなる手に力を入れているの。帳表紙の分離・リサイクルも実現した。

このような事業を可能にしたのは、仏Enma社の高度な破碎機やリサイク

廃プラ排出企業の声を形に

エコロ / Enma Japan 社長 後藤雅晴氏に聞く

ル装置を日本仕様にアという流れになっていく。単体の機器販売は川島綾瀬市(神奈川県)には、Enma Japanの排出事業者やメーカーなど、ma Japanのテ個々のオーダーで機器を併設している。お客さまにテースが非常に多くなつて、実機を見ながら話合っている。排出事業者が自社リをそれぞれ分離して、サイクルを進めること装置も開発した。「廃棄物が減った」と、排出事業者やメーカーは自社内リサイクルを進めたいというところが少ない。自動化を進めて、省人化とコストパフォーマンス向上を図り、働き事業を行いつつ、Enma Japanを通る。これらは時代の要

と、排出事業者やメーカーは自社内リサイクルを進めたいというところが少ない。自動化を進めて、省人化とコストパフォーマンス向上を図り、働き事業を行いつつ、Enma Japanを通る。これらは時代の要

リサイクルと
機器販売の両輪で

請でもあるだろう。